



地域医療連携 News

平素より中国労災病院が大変お世話になり、誠にありがとうございます。

地域医療連携News第195号を発行致しました。今後とも連携の程よろしくお願い申し上げます。

中国労災病院理念

働く人と地域の人のために患者中心の良質な医療を提供します。

中国労災病院の基本方針

- 個人の尊厳と権利を尊重し、高度で安全な医療を推進します。
- 地域の医療機関と連携し、救急・急性期から慢性期までの一貫した医療を実践します。
- 最新の医学に基づいた専門的な医療を実践します。
- 働く人の健康を守り、治療と仕事の両立を支援します。
- 周産期医療を充実させ、未来を担う子供たちを支援します。
- 優れた人材を育て、働きがいのある職場づくりを推進します。

初期臨床研修の理念

医師としての人格をかん養し、将来専門とする分野にかかわらず、医学・医療の果たすべき社会的役割を認識しつつ、日常診療で頻繁に関わる病態に適切に対応できる基本的な診療能力を身につけると共に、崇高な信念と人格をもち、生涯にわたり自己研鑽する態度を身につけた自立した医師を育成します。

初期臨床研修の方針

- ①医師としての基本的価値観(プロフェッショナリズム)を修得します。
- ②医学・医療における倫理性を理解し、安全な医療の提供が行えるようにします。
- ③救急医療やプライマリ・ケアなどの診療能力を修得します。
- ④患者中心の思考・行動をする姿勢を修得します。
- ⑤他の医療スタッフ、患者や家族と協調し、良好な関係を築けるようにします。
- ⑥地域の中核病院としての役割を理解し、地域の病院と連携し、地域医療を学びます。
- ⑦症例を通じて、診断・治療の結果だけでなく、プロセスを学びます。
- ⑧他の医師や同僚とともに研鑽しながら、生涯にわたって学ぶ姿勢を修得します。

1. 困ったときは“労災の整形外科”へ!

～地域の先生方とともに歩む、安心と信頼の医療体制～

地域の開業医・後方医療機関の先生方、いつも患者さんのご紹介・ご支援を賜り、心より感謝申し上げます。

「どこに送ればいいのか迷ったら、まず“労災の整形”へ」——そんな声をいただくことが増えました。

私たちが目指すのは、“何でも相談できる、頼れる整形外科”です。



整形外科部長
脊椎・脊髄外科部長
濱崎 貴彦

性疾患から一般外傷、スポーツ障害、腫瘍まで、幅広い疾患に対応してきました。

膝・脊椎・手・肩・股関節・腫瘍・骨粗鬆症——各分野の専門医がタッグを組み、複雑な症例も多角的に診断・治療しています。

「専門性」と「総合力」を両立し、“患者ファースト”の精神で日々診療にあたっています。

図1 中国労災病院
整形外科記念誌 2023



70年の伝統×最新医療×圧倒的なチーム力

当科は設立70年の歴史と伝統(図1)を礎に、変

断らない、逃げない、あきらめない

年間4,000件近い救急搬送、10,000件超のウォークイン。

当科では、医師の適切な配置と迅速な病床調整により、「多忙や満床を理由に断らない」体制を徹底しています。

平日日中は急患当番を配置、夜間・休日も当番医制で、病院支給のiPadを片手にコールがあれば当直医から画像を共有。必要とあらばスムーズに駆けつけるフットワークの良さ。

「型にはまらない症例」も、各分野の専門家が知恵を持ち寄り、カンファレンスで最適解を導き出します。

地域連携が生み出す“切れ目のない医療”

遠方から来院される患者も多いため連携室に届いた紹介状を参照し、必要な検査や診察はなるべく少ない来院で済む様に工夫。

広島県HMネットワークや地域連携パス(大腿骨近位部骨折/椎体骨折)を活用し、患者情報をシームレスに共有。

その結果、転院調整や逆紹介もスムーズです。

「また何かあれば、いつでも診ますよ」——

患者さんが安心して地域や島嶼部に戻れる“つなぐ医療”を実践しています。

手術も保存治療も、柔軟に対応

年間2,000件を超える手術件数(図2)は、呉市内は元より広島大学関連病院の中でもトップクラス。

一方で、透視やエコーを用いたブロック療法など保存的治療にも力を入れ、「手術は望まない」という患者さんにも幅広く対応可能です。

図2 手術件数の推移



総合力×チームワーク=心理的安全性

副院長・部長・スタッフ・後期レジデントによる回診・カンファレンス、看護師・薬剤師・リハビリ・管理栄養士・MSWとの連携——多職種が層をなして患者さんを見守ります。

“お互いの垣根の低さ”が、迅速な対応と心理的安全性につながっています。

最後に

「労災の整形外科は、変わらず頼りになるね!」

地域の先生方や患者さんから、そう言っていたける存在であり続けたい——これからも、どんなご相談・ご紹介もお待ちしております。

迷ったときは、まずはご一報ください。

私たちが、全力でサポートいたします。



2. 前立腺がん手術後の地域連携クリニカルパスの紹介です!

腎泌尿器外科の小林です。平素より当院への紹介を賜り、誠にありがとうございます。今回は、前立腺がん手術後の地域連携クリニカルパスについてご紹介させていただきます。

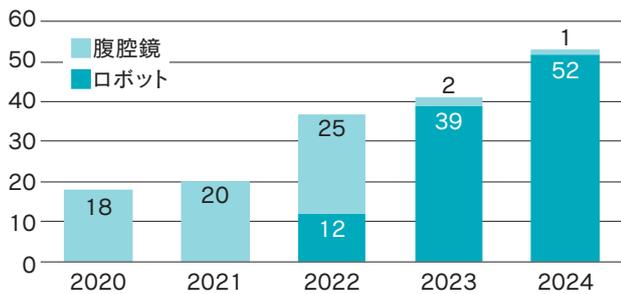


腎泌尿器外科部長
ロボット手術センター長

小林 加直

2022年10月に開始したhinotori™によるロボット支援前立腺全摘除術の症例は着実に増え、2025年2月には重篤な合併症なく100例を達成いたしました(図1)。

図1 当院の前立腺全摘除術の件数および術式



その一方で、術後のほとんどの患者さんを当院でフォローしている状況にあるため、現在、外来の混雑や長時間の待ち時間などが喫緊の課題となっています。そこで、広島県主導の「わたしの手帳」を活用した地域連携体制の構築を図ることを考えております。地域連携パスは、患者さんのみならず地域の医療機関にとっても有益な体制づくりと思われます(図2)。

図2 地域連携クリニカルパスの全体図

(広島県公式サイトより)



地域連携パスで使用される「わたしの手帳」は、前立腺がん術後の患者さんの病状経過を、治療病院とかかりつけ医が共有し、継続的にフォローアップしていくための手帳です(図3)。これにより、患者さんは自身の健康状態を把握することができ、通院負担の軽減にも繋がります。

図3 「わたしの手帳」表紙イメージ
(広島県公式サイトより)



連携パスの運用イメージを図4にお示しします。術後フォローを経て病状が安定した患者さんについて、地域のかかりつけ医にて経過観察(PSAチェックで、0.2ng/mlを超えたら再発)をお願いし、年1回の当院でのフォローアップを基本とした診療体制を構築していく予定です。

図4 地域連携のクリニカルパスの運用の概要

① 手術実施(当院)	前立腺全摘除術施行、術後1~3ヵ月当院で経過観察
② 状態安定	「わたしの手帳」交付、地域医療機関へ診療情報提供
③ 連携診療開始	地域医でのPSAチェック、症状問診(3~6ヵ月ごと)
④ 年1回の再診	当院での定期フォローアップ
⑤ 再紹介のタイミング	PSA上昇や症状出現時は当院へ逆紹介

今後の地域連携強化に向けても、本取り組みへのご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

私の手帳の掲載URL

提供資料 地域連携パス - 広島県地域保健対策協議会

<https://citaikyo.jp/pass/index.html>

3. 整形・リハビリオープンカンファレンスを開催いたしました。

令和7年6月25日(水) 当院8階多目的ホールにて、「第20回 整形外科・リハビリオープンカンファレンス」を開催いたしました。

今回は脊椎外科の治療について、中国労災病院における取組を中心に講義を行いました。

初めに当院の理学療法士、看護師より「腰椎術後の後療法・看護プロセス」を時系列に紹介し、脊椎外科術後に固有な留意点(神経症状・体動時の姿勢等)について実例をもとに解説いただきました。

次に、濱崎整形外科部長より「チームで進める脊椎診療の新しいカタチ～整形外科・リハビリ・院内そして地域連携～」を題名に脊椎手術の実際とPitfallについて講演いただきました。実際の手術画像の提示や手術手技に続いて、癌転移症例をはじめとした難渋症例を数例提示し、脊椎整形外科だけではなく、集学的アプローチの必要性について言及し、あわせて救急体制と脊椎外科のかかわりやAI・ロボットなどの今後期待される技術革新についてご紹介いただきました。

講演後、参加者からは、中国労災病院への紹介患者に関する質問や椎体骨折に関連する質疑があり、地域医療連携についてディスカッションする機会となりました。

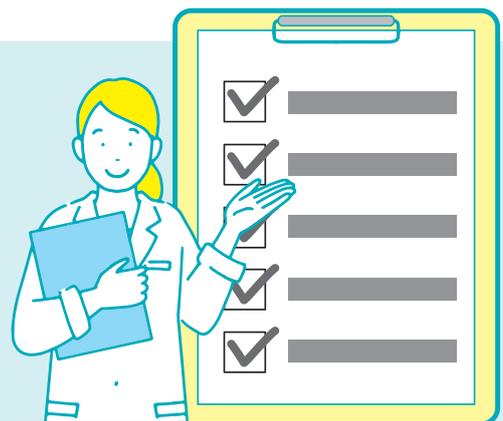
当日は会場、またオンラインにて、多くの方にご参加いただき誠にありがとうございます。今後も皆様のお役に立てるような研修会を企画いたしますので、引き続きどうぞよろしくお願いいたします。



4. 連携室からのお知らせ

放射線診断科の同意書及び問診票の様式が変更となりました。変更点は、同意書の記載が不要となり、内容をご確認いただくのみです。

「問診票」のご記入を何卒よろしくお願いいたします。



地域医療連携ニュース第195号

〒737-0193 広島県呉市広多賀谷1-5-1 Tel.0823-74-0321 Fax.0823-74-6260
中国労災病院 患者サポートセンター <https://www.chugokuh.johas.go.jp/regionalPartner/>



発行日：令和7年8月1日